

全学教養科目「学問の面白さを知る」  
2023年 5月19日

# エジプトの採石場でヘレニズム文明を探る

周藤 芳幸

(名古屋大学人文学研究科)



# 自己紹介

周藤 芳幸 (すとう よしゆき)

専門： 古代ギリシア史・地中海文化交流史

神奈川県横須賀市出身

東京大学で考古学を学んだ後にギリシアに留学

ギリシア政府給費留学生として4年間をアテネで過ごす

1993年に名古屋大学文学部に助教授として着任

1997年からエジプトの発掘調査に参加

2005年から名古屋大学教授

2018年から同高等研究院院長

2022年から同人文学研究科長、文学部長

古代地中海世界における知の動態

ヘレニズム時代のエジプト在地社会と文化変容

「シュリーマン ―黄金と偽りのトロイ」  
David A. Traill (著)  
周藤芳幸・北村陽子・澤田典子 (訳)  
青木書店 1999



"Transmission and Organization of Knowledge in the Ancient Mediterranean World"  
Yoshiyuki Suto, Phoibos Verlag, 2022

なぜ古代地中海世界は、独自の卓越した創造性を発揮することができたのだろうか。文明を創造し継承した知の伝達メカニズムを探る!



## 今日の講義の概要

- 1 ヘレニズム時代のパピルス文書から見た採石業
- 2 中エジプトのニュー・メニア採石場におけるこれまでの調査
- 3 2020年1月に行った調査の報告





## ヘレニズム時代とは？

「出発点」 都市国家 = ポリスの時代

フィリポス2世によるポリス世界の制覇 (338 BC)

アレクサンドロス大王の東征 (334 - 323 BC)

「終着点」 世界帝国の時代

最後のヘレニズム王国 (プトレマイオス朝) が滅亡する (30 BC)



©The Archaeological Museum of Pella

ヘレニズム時代は世界最古のグローバル化の時代

文化圏の垣を越えた人々と知識の移動と共通語としてのギリシア語の普及

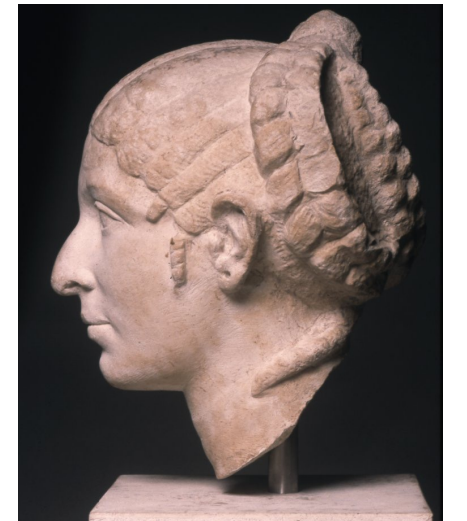
プトレマイオス朝のエジプト

数多くのギリシア人が入植

エジプトの伝統文化がギリシア文化と遭遇

膨大なギリシア語パピルス文書が出土

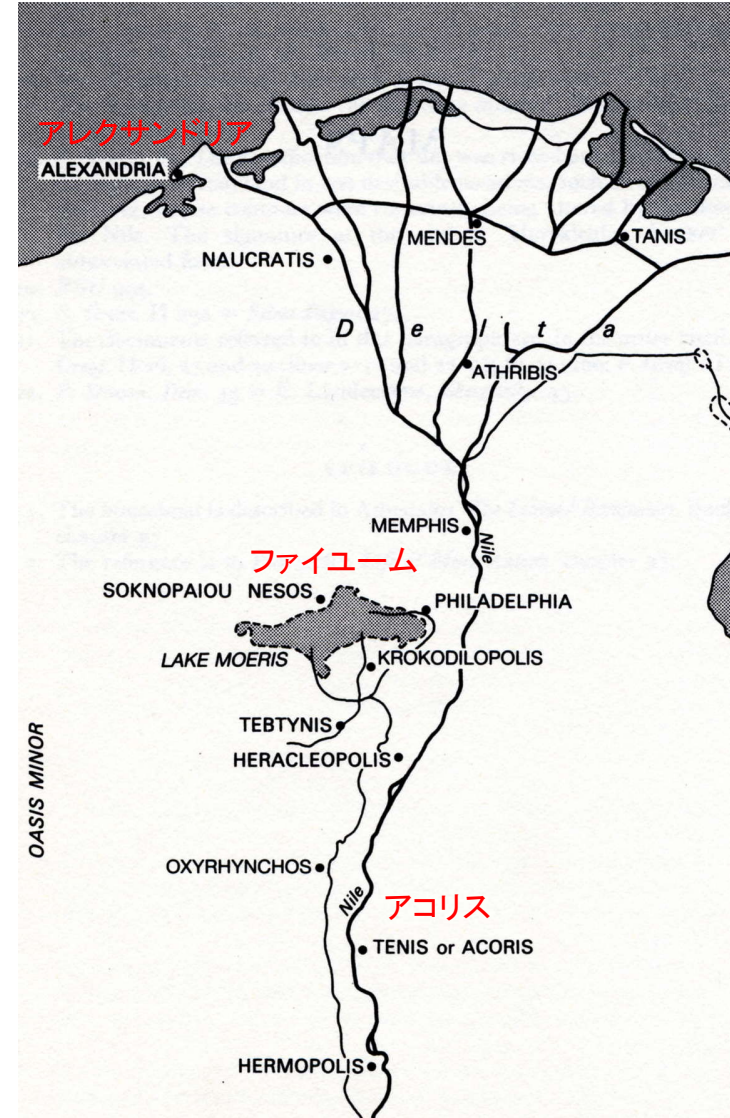
領域部における人々の暮らしの細部が瞥見可能



©The Trustees of the British Museum

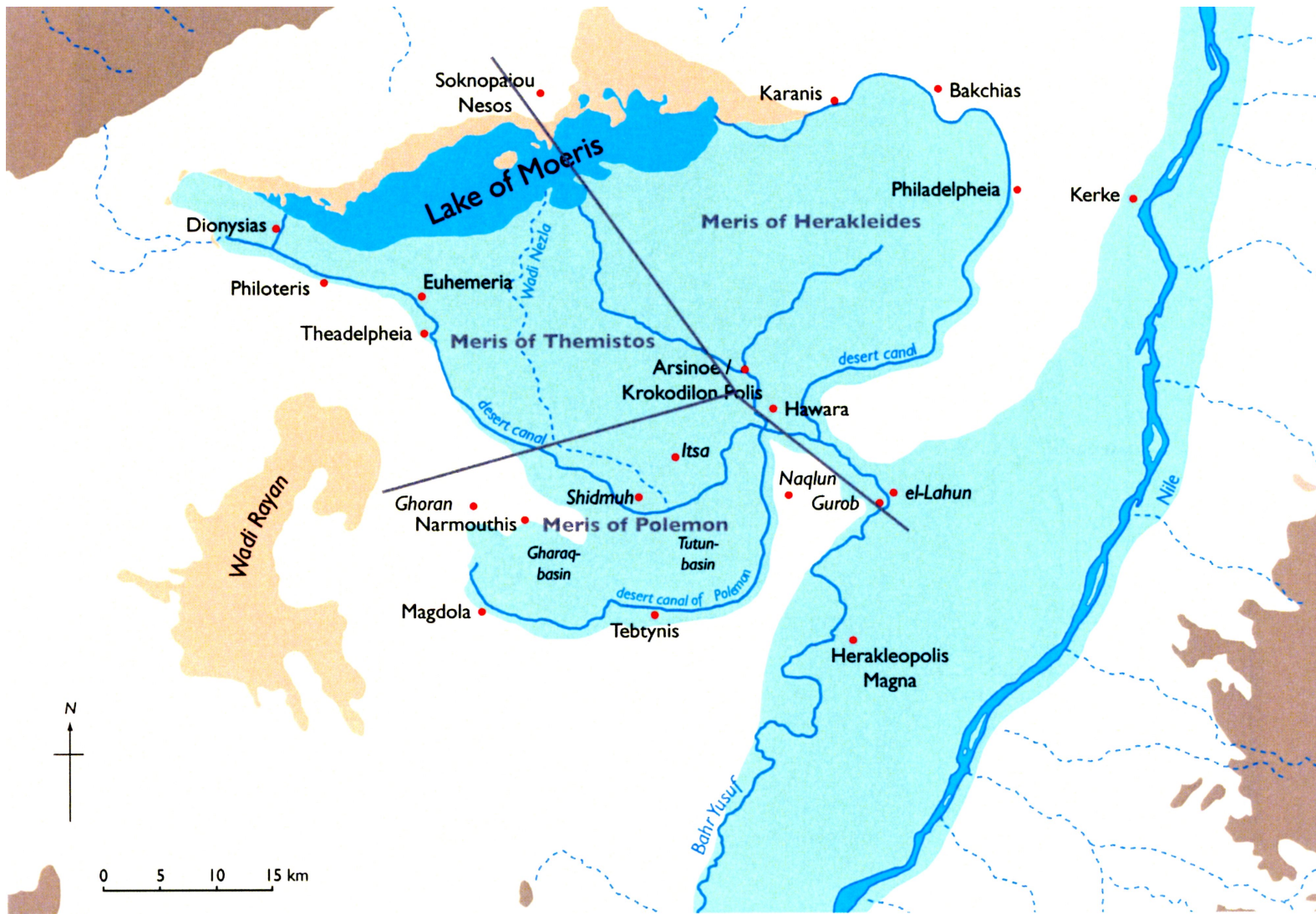


# ヘレニズム時代のエジプト





# ファイユームのギリシア人入植地





## ピートリー・パピルスとクレオン文書

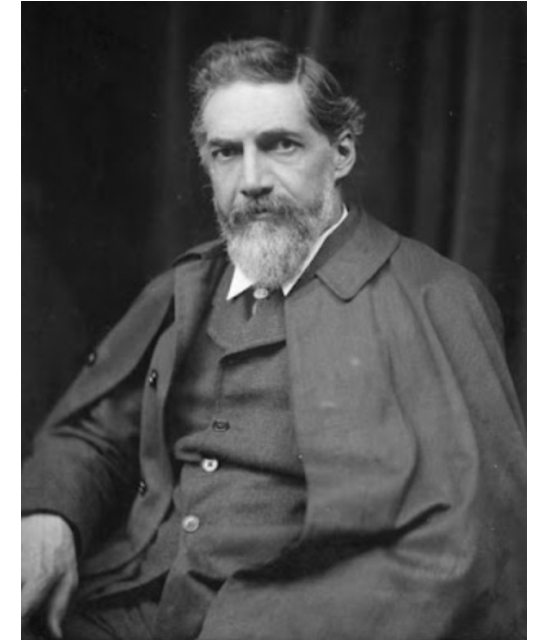
ファイユームに入植したギリシア人の経済活動を伝える重要な史料  
→フリンダース・ピートリーが1889年に発見したパピルス  
グロブの墓域で発掘されたカルトナーージュに由来

相当部分を占めるのがクレオンとテオドロスのアーカイヴ  
2人の役職名 = 建築技師 (*architekton*)  
アルシノイテス州 (ファイユーム) の土木事業を管掌

クレオン文書の重要性

ゼノン文書と合わせると前3世紀の全ギリシア語パピルスの1/3  
採石場での活動について豊かな情報を含む

B. Van Beek, *The Archive of the Architektones Kleon and Theodoros (P. Petrie Kleon)*, *Collectanea Hellenistica – KVAB VII*, Leuven 2017.



©Wikimedia Commons







## クレオン文書の内容

### パピルス学におけるアーカイヴの定義

「古代において、ある個人、家族、コミュニティ（神官など）によって、意図的に蒐集・保管され、現在にまで伝存している文書群」

### クレオン文書の場合

建築技師クレオンの蒐集していた文書が、後任の建築技師テオドロスに相続された後、一括廃棄されてミイラ棺のカルトナージュに再利用される  
(クレオン文書以外にもクレオンに言及するパピルスは存在)

### クレオン文書の内容

書簡（控えも含む）

請願書などの公的書簡・家族や友人がクレオンに宛てた私的書簡

それ以外の書類

会計記録、契約書など





P. Petrie Kleon 11: 息子フィロニデスからの手紙

## 技師クレオンと採石業との関わり

採石業に言及するクレオン文書の数

18点（16点の手紙と2点の会計報告）

年代決定できる文書は、前256年10月から前255年8月までに限定

→プトレマイオス2世の治世30年

クレオンと採石業との関係

採石場での活動そのものを管掌していた訳ではない

業務はファイユームの灌漑工事に必要な石材の調達

クレオンの実際の仕事はこれに関連する物資の手配など

クレオンのもとに寄せられる苦情と要請

労働者への食料の遅配

現場監督による労働者への指示や適切な配置の欠如

突発的なトラブルへの対処



## クレオンに寄せられる現場からの苦情

フィロクセノスと他のネアニスコイがご挨拶します。140人の石工たちは、食料がなければ何が何でも働かないと言っています。というのも、彼らが言うには、誰も仕事を指示してくれないので、待機している間に、前もって支払われたお金を使い尽くしてしまったからだそうです。私たちは、王室の穀物倉から、彼らに小麦1アルタベを分配した方が良いと思います。そうすれば、彼らは宰相が急かしているように仕事を最後まで行い、こうして無駄に待機していることもないでしょう。すべての石工の……。ごきげんよう。

*(P. Petrie Kleon 49)*

パストンティスで働いている石工たちがクレオンにご挨拶します。私たちはティトヌイスであなたから石を受け取り、それらの加工は終わっています。しかし、現在では、ソーマたちがいないので、残りの石の上の砂をどけることができないため、エペイフ月からトト月まで仕事ができずにいます。働いた期間は、2か月と10日です。この地は荒涼として、小麦もありません。なので、なるべく早く仕事を終えて、ここを立ち去りたいと考えています。早く働き手を送ってください。そうでなければ、私たちも仕事を放棄することにします。ご幸運を。治世30年トト月9日（前256年11月3日）

*(P. Petrie Kleon 50)*

## エクバテリアの十人頭からの手紙

建築技師のクレオンに、エクバテリア（波止場）の石工の十人組頭がご挨拶します。私たちは、現場監督（請負人）のアポロニオスによって、不当な扱いを受けています。彼は、私たちに硬い石の採掘を命じる一方、この仕事を他の者たちと分担させることなく、自分の配下の者たちには柔らかい石を採掘させています。私たちの工具はすっかり鈍ってしまい、どうにもなりません。ですから、あなたにお願いします。私たちが正當に扱われるよう、私たちがどれだけたくさん硬い石を採掘したか計量し、他の40人（140人？）の石工たちにもこの労働を課すことで、私たちだけが苦しむのではなく、他のものもこれをともしるようになしてください。ご幸運を。治世30年ファオフィ月24日（前256年12月18日）

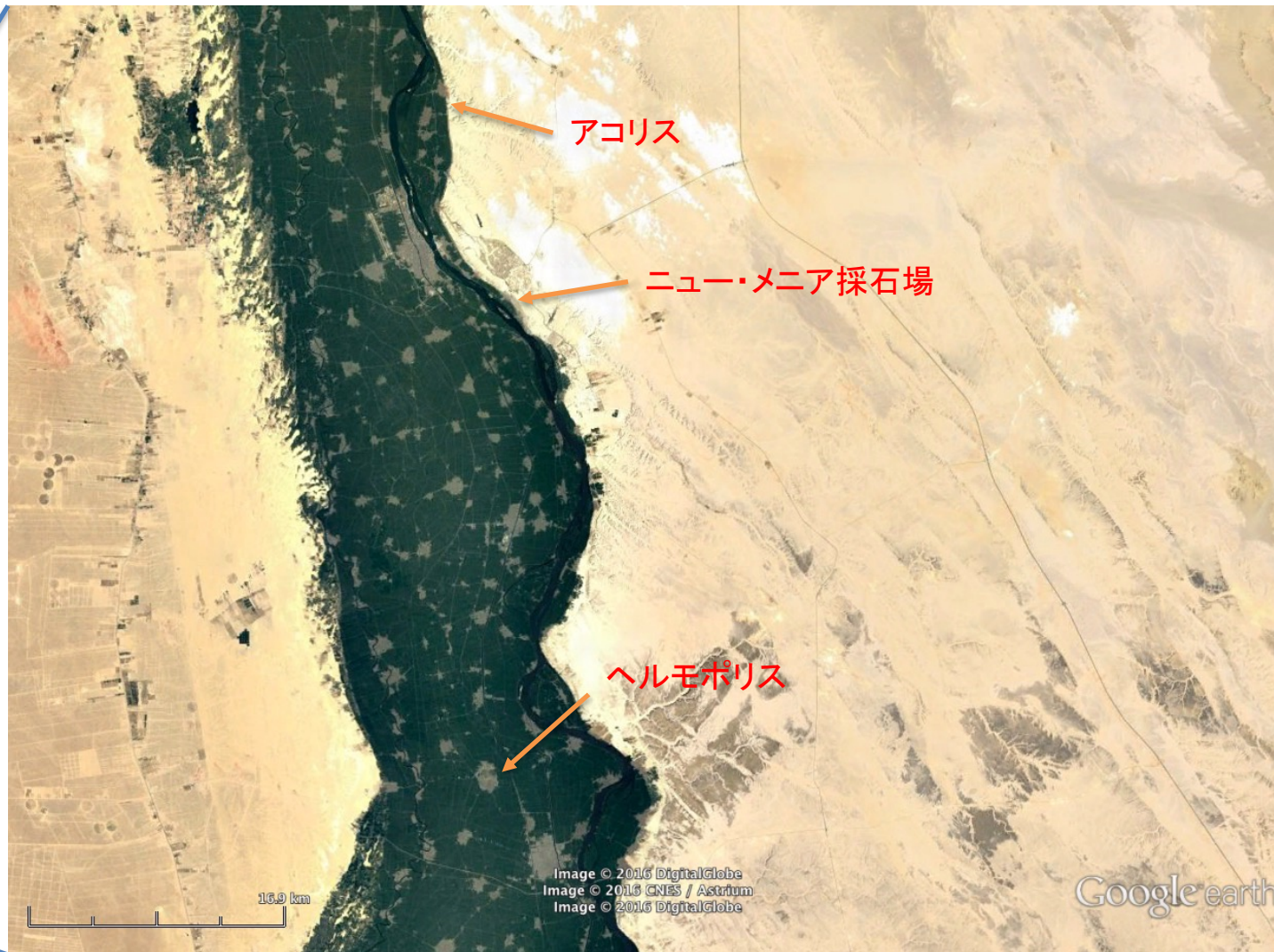
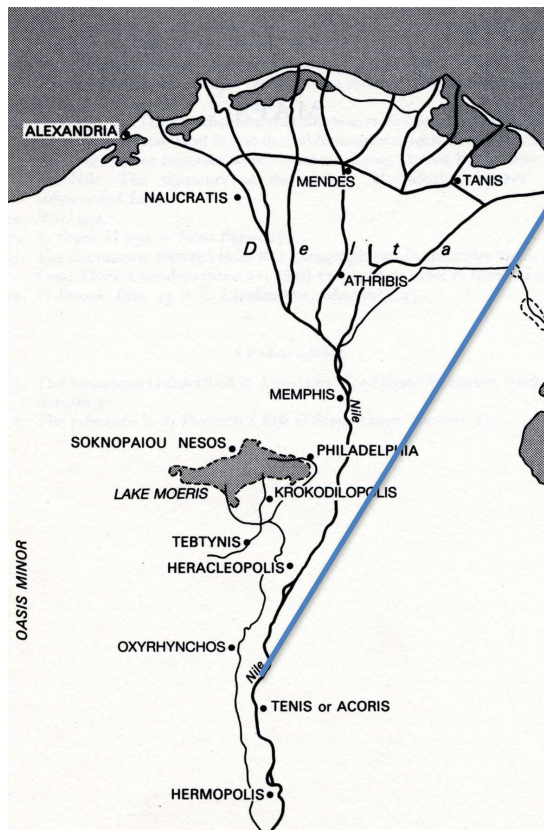
*(P. Petrie Kleon 51)*



## クレオン文書からの知見

1. 採石業は請負契約 (*ergolabia*) で行われる  
史料ではアポロニオスという人物が請負人 (*ergolabos*)  
請負人は、下請けとなる石工 (*latomos*) を雇用
2. 石工は強制労働者ではなく、自由身分の賃金労働者  
石工の一部は自由石工 (*eleutherolatomos*) を名乗る  
石工は、十人組頭 (*dekatarchos*) のもとに組織される  
石工は全員がエジプト名
3. ソーマとパイダリオンも採石業に従事  
ラトモスは補助労働者としてソーマを必要とする  
パイダリオンは子どもの奴隷のこと？
4. 囚人も採石業に従事させられることがある

# 中エジプト：ヘルモポリテス州北半部





## 州都ヘルモポリスの遺跡（アシュムネイン）





## 現代の中エジプトの採石場（El Siririya）





# アコリスとニュー・メニア採石場



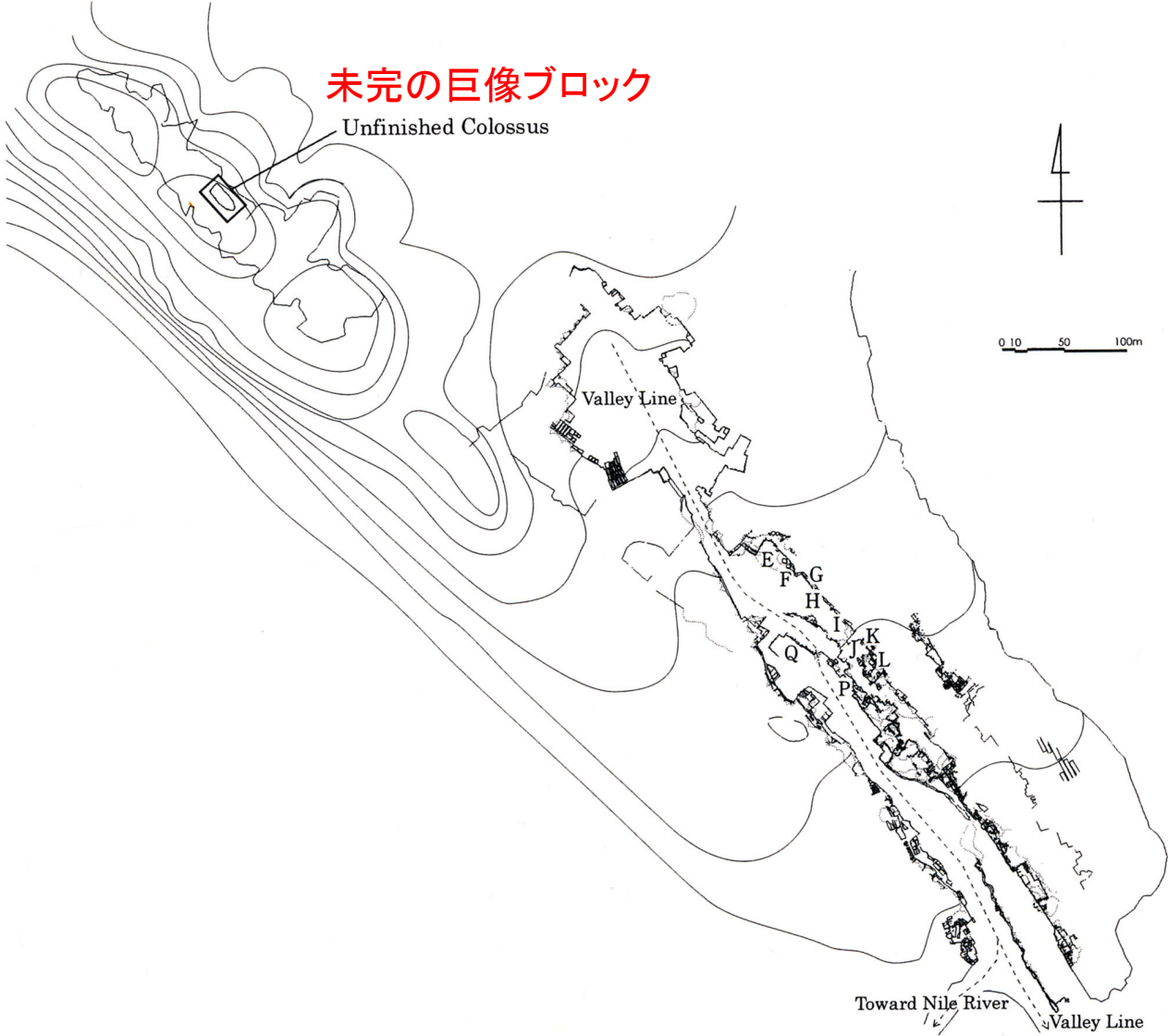


## 南から望むニュー・メニア採石場





# ニュー・メニア採石場



## ニュー・メニア古代採石場



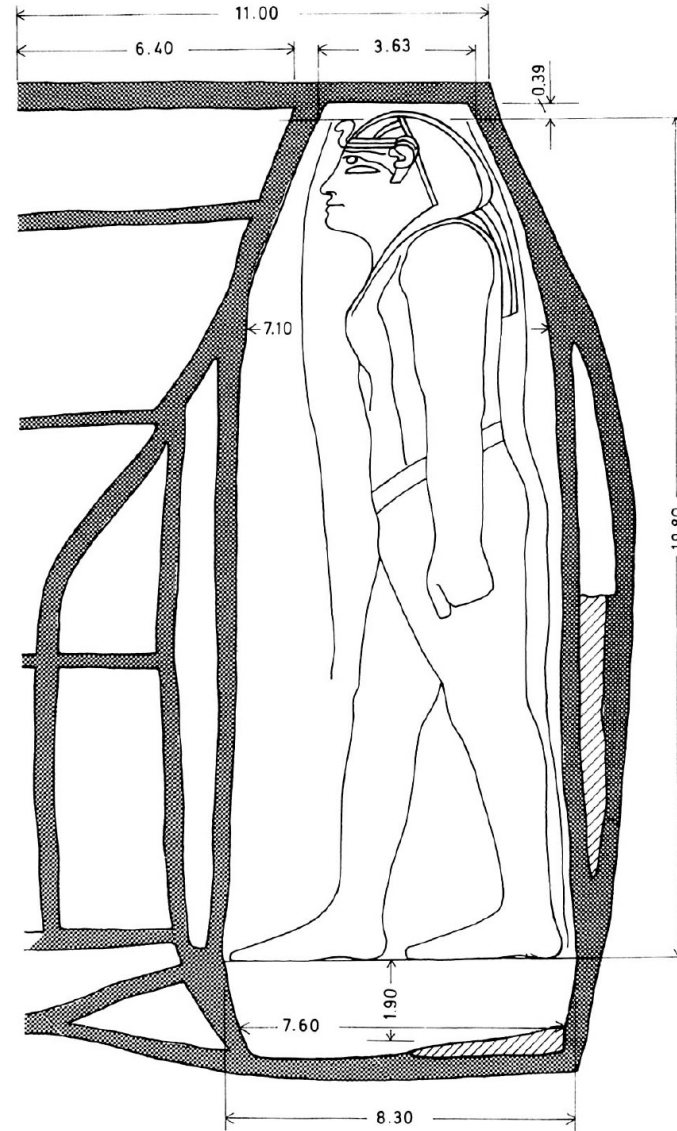


## 未完の巨像ブロックの表面





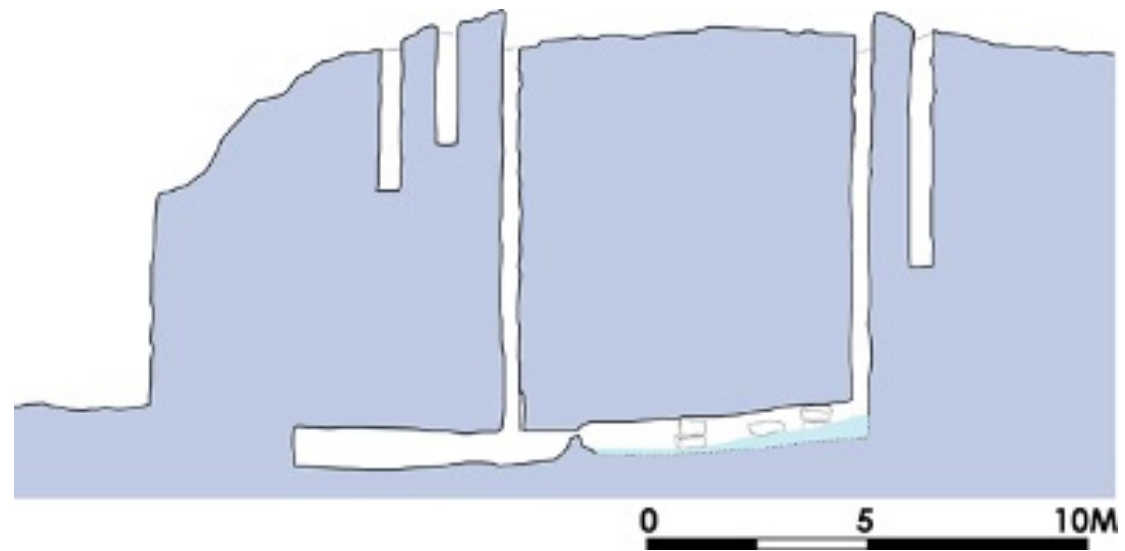
# 未完の巨像ブロック表面の「設計図」



Maßangaben in Meter



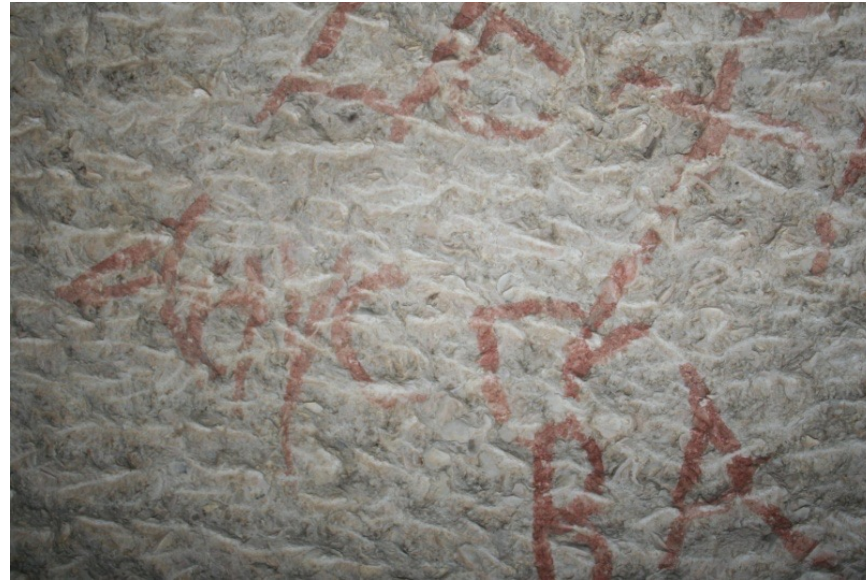
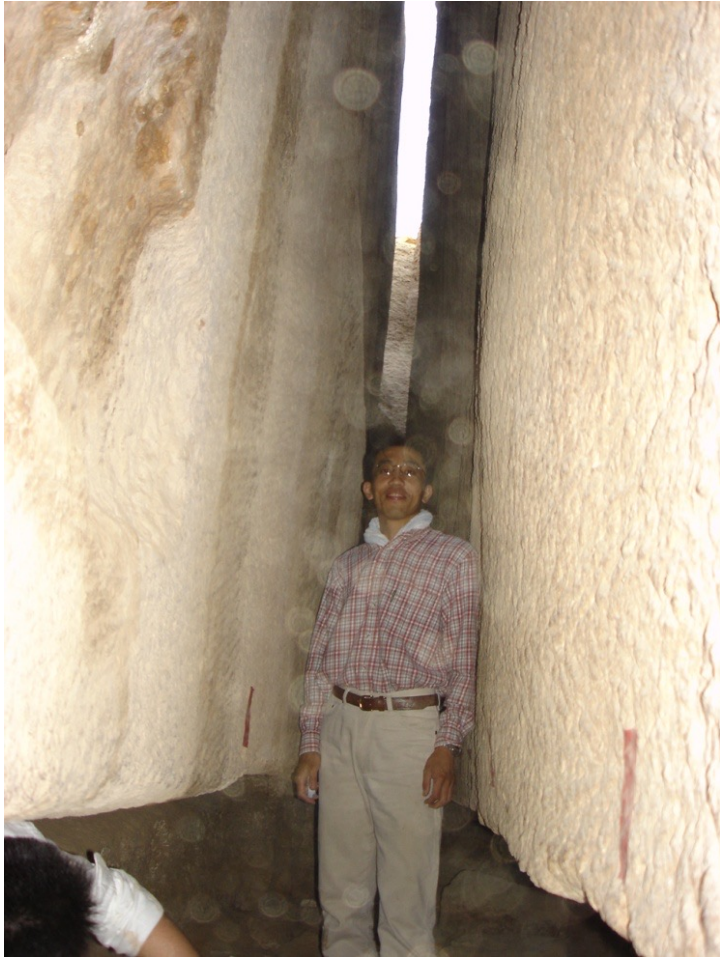
## 巨像ブロックの断面と底部



Akoris Archaeological Project

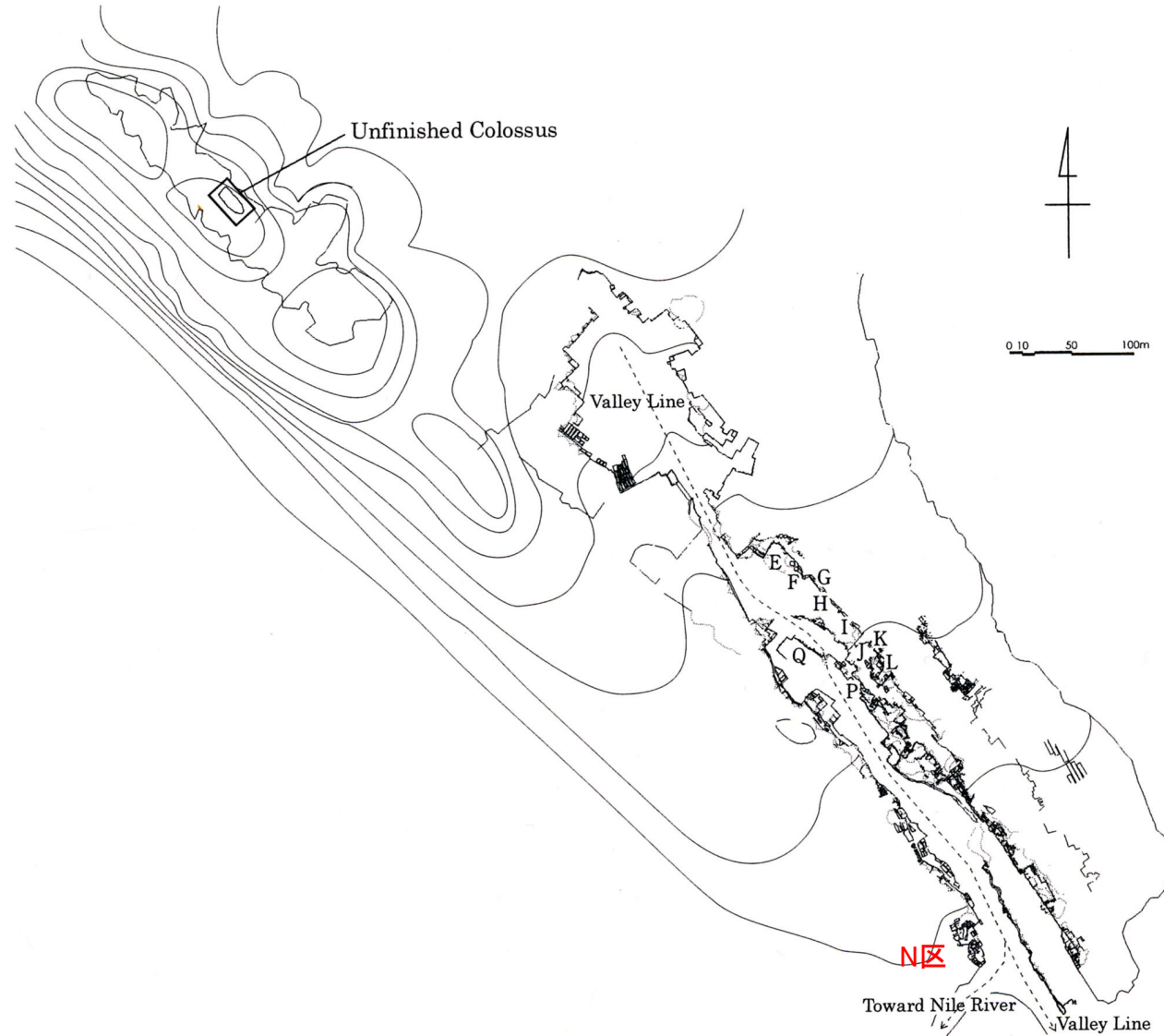


# 巨像底部天井面のグラフィティ





# ニュー・メニア採石場とN区

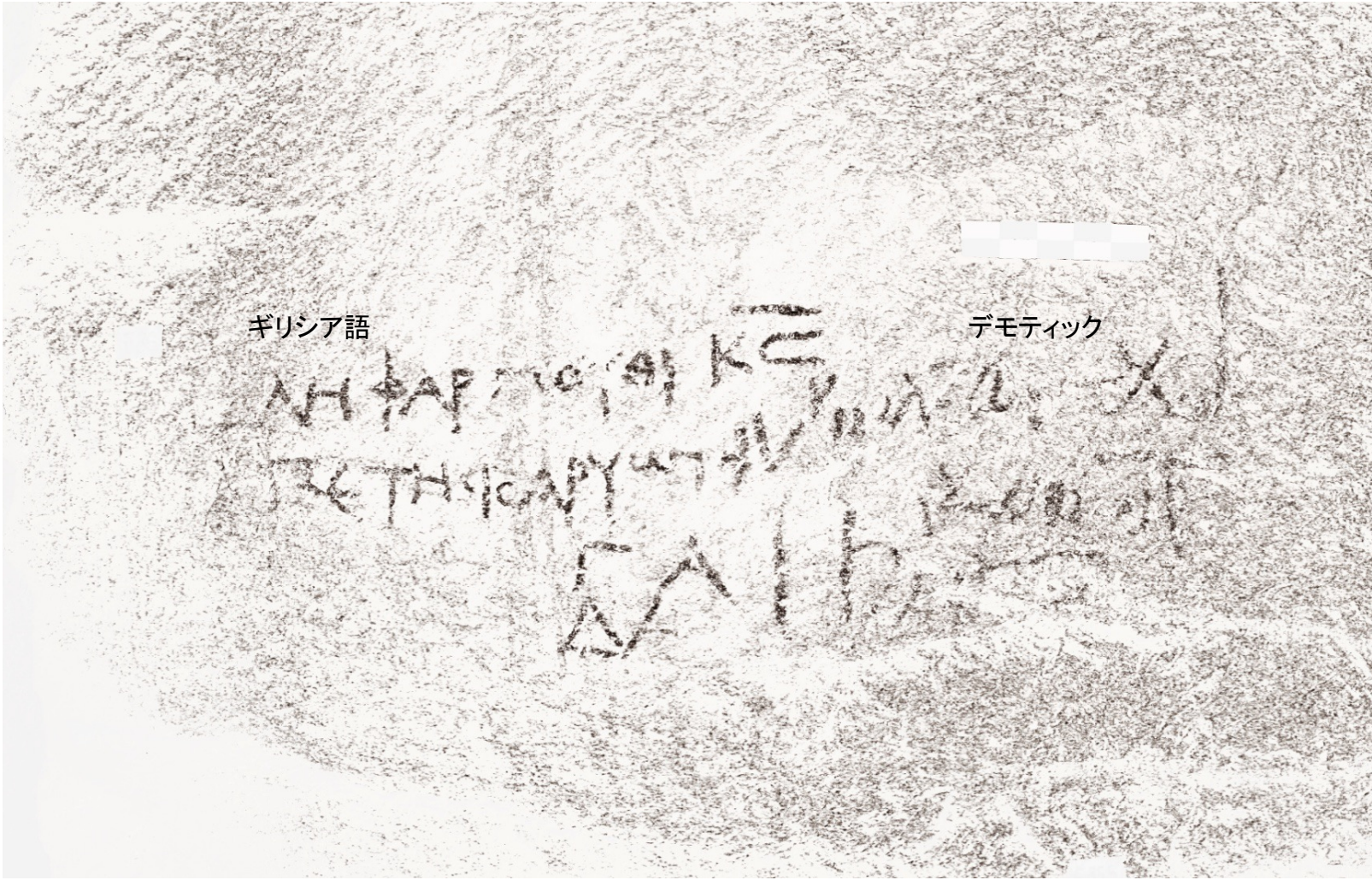


# 採石場の壁に残されているグラフィティ（2003年）





F 36 : 治世38年Pharmouthi月26日  
L E Haryotesの子Petesis



ギリシア語

デモティック



L14bis



ΣΑΡΑΠΕΤΟΥ 16

治世 35(年) エペイフ(月) 16(日)

ΔΙΟΝΥΣΙΟΥ

デーメート(リオス)・ドローモ(ノス)

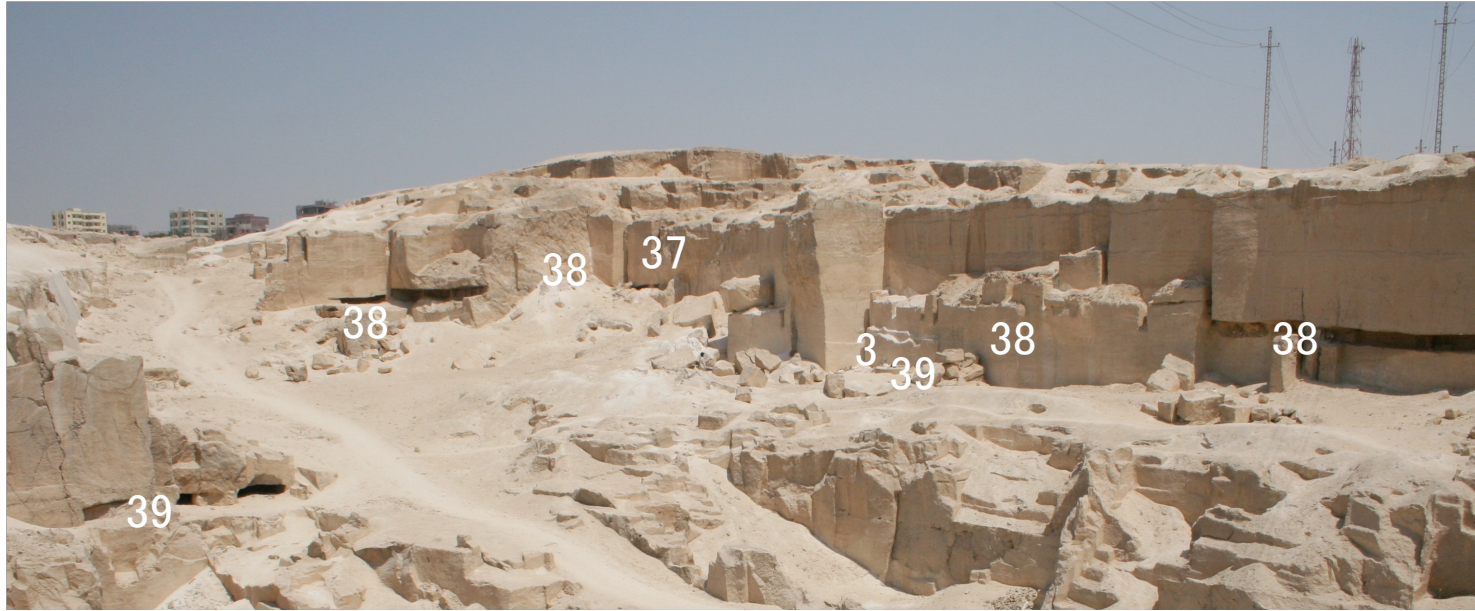
8  
Α  
Α

3 1/3

1



# 谷の上部における治世年の変遷





## 谷の底部のグラフィティに現れる治世年の変遷





## グラフィティについて調査により判明したこと

1. グラフィティは、採石のための縦溝の壁、及び横穴の天井部に一定間隔で書かれる
2. 横穴天井部のグラフィティは、開口部を背にして見上げた方向で書かれる
3. 谷の上部では、ギリシア語とデモティックの二言語併用、下部では途中からギリシア語単独
4. ギリシア語グラフィティについては、区によって細部に活用形や前置詞に差異がある
5. 治世年については、ギリシア語グラフィティは財政暦、デモティックのそれはエジプト暦を採用
6. 確認されている最古の年代は、プトレマイオス2世の治世33年頃（F区）
7. 確認されている最新の年代は、プトレマイオス4世の治世2年テュビ月21日（Q区）
8. 谷の上部でも下部でも、治世年は谷の出口から奥に向かって採掘が進んだことを示す
9. 人名はギリシア人名とエジプト人名が併存、ただし区により偏り
10. 「自由石工」の称号は、エジプト人名にしか冠されない
11. 標準的な三つ組みの数字は、一単位の掘削量（=労働量）を三次元で表示
12. 一単位の掘削量は、縦溝と横穴で大きく異なる
13. 一単位の範囲は、しばしば採掘後に朱線で区画される
14. 財政暦の前半6ヶ月と後半6ヶ月とでは、グラフィティの数にほぼ2倍の差がある

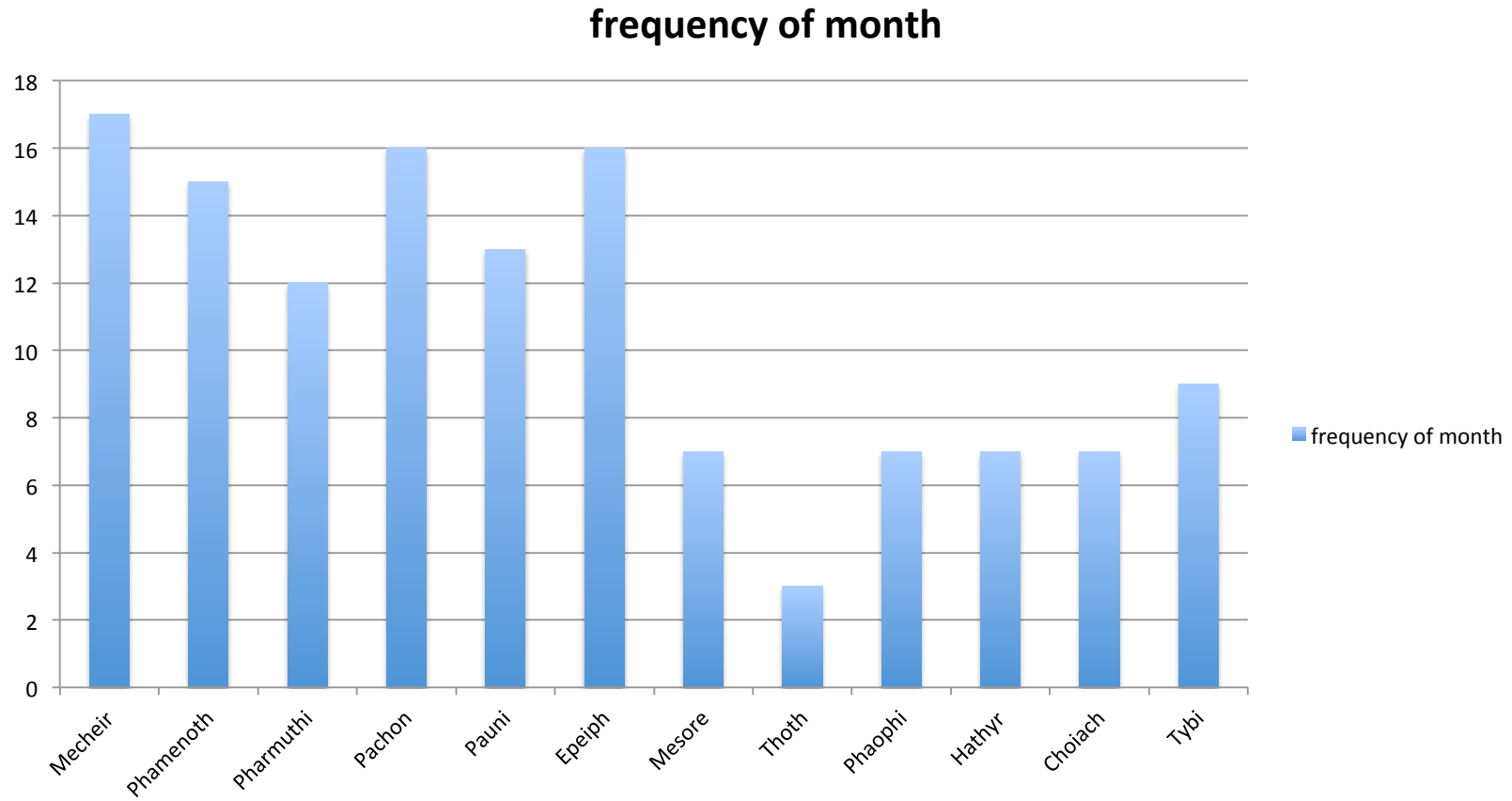
エジプトの暦： プトレマイオス2世の治世35年  
前251/250年の場合

	Akhet (増水季)	Peret (播種季)	Shemou (収穫季)
1	Thoth (10月25日)	Tybi (2月22日)	Pachon (6月22日)
2	Phaophi	Mecheir	Payni
3	Hathyr	Phamenoth	Epeiph
4	Choiach	Pharmouthi	Mesore





# 採石場の季節性



# ニュー・メニア採石場のグラフィティの歴史的意義

## グラフィティの書き残された時代

プトレマイオス2世の治世33年（前253年）から4世の治世2年（前221年）

☆ ギリシア語公文書に財政暦が用いられていた時期とほぼ一致

ゼノン文書：2世の治世25年（前261/0）から3世の治世19年（前229年）

クレオン文書：採石に関する年代の明記された11点は前256年秋から前255年夏

→ニュー・メニア採石場とアコリス南採石場のグラフィティは、その直後

## グラフィティの目的

個別の労働者による一単位の労働量の計測（←採掘は自由人の賃労働）

〈参考〉

τὸ [δ]ὲ πλήρωμα οὐκ ἐργάζεται ἕως οὗ τὰ συντετελεσμένα ἔργα ἐγμετρήθηι α[ύ]τοῖς. καλῶς ἂν οὖν ποιήσαις ἀποστείλας τοὺς ἐγμετρητὰς ὅπως ἐγμετρ[ήσω]σι ἵνα μὴ ἄτοπ[ό]ντι πράξωσιν.

「乗組員」たちは、彼らがすでに完了した仕事<sup>が</sup>彼らのために計測されるまでは、働いてくれません。そのため、彼らが妙なことをしでかしたりしないよう、計測するために計測官を派遣してください。（P. Petrie III, 43 (3) 15-18）



## 東から望むN区 (2018)



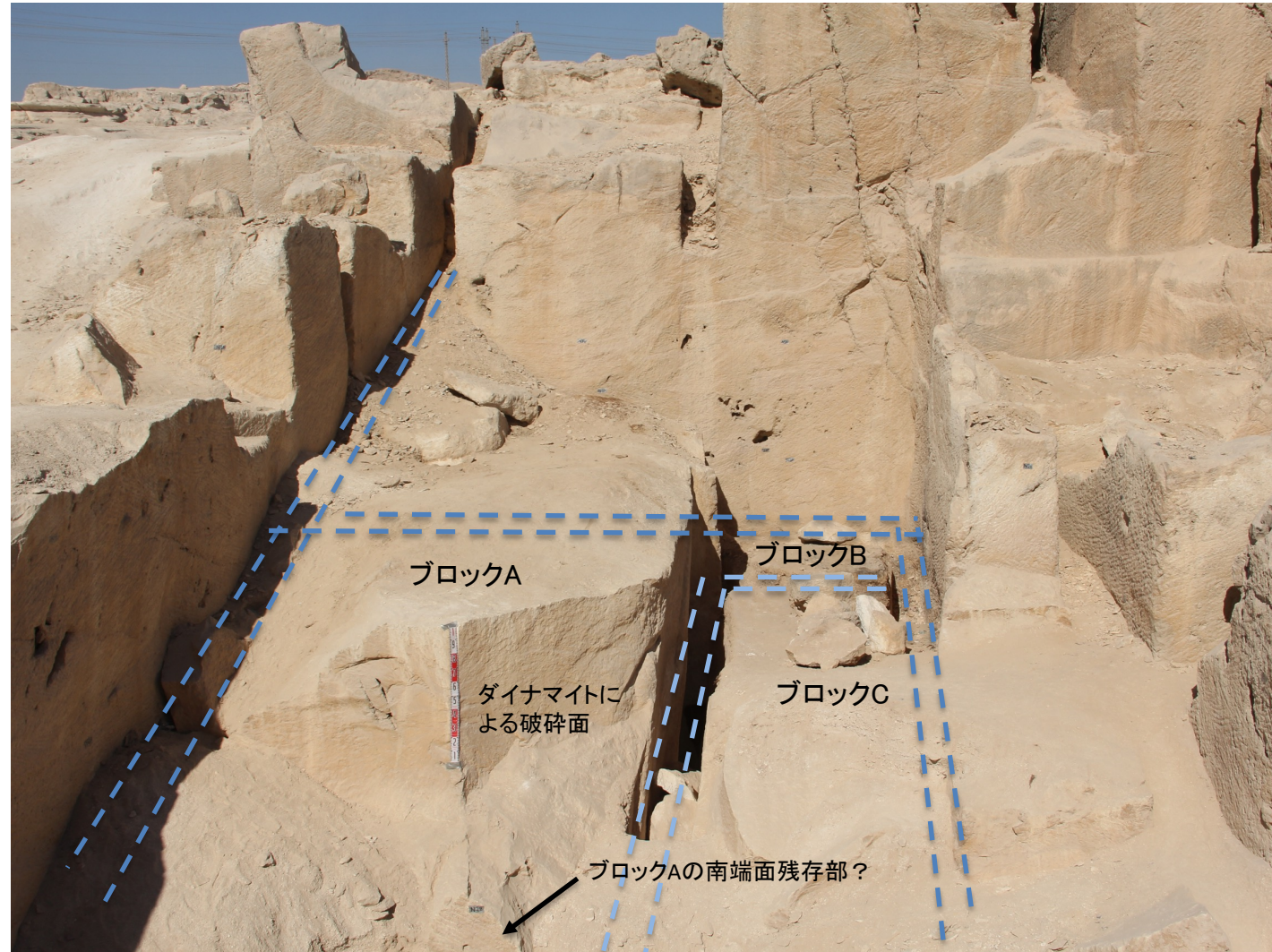


## N区中央縦溝クリーニング (2018)





## 南から望むN区北半部と縦溝 (2018)



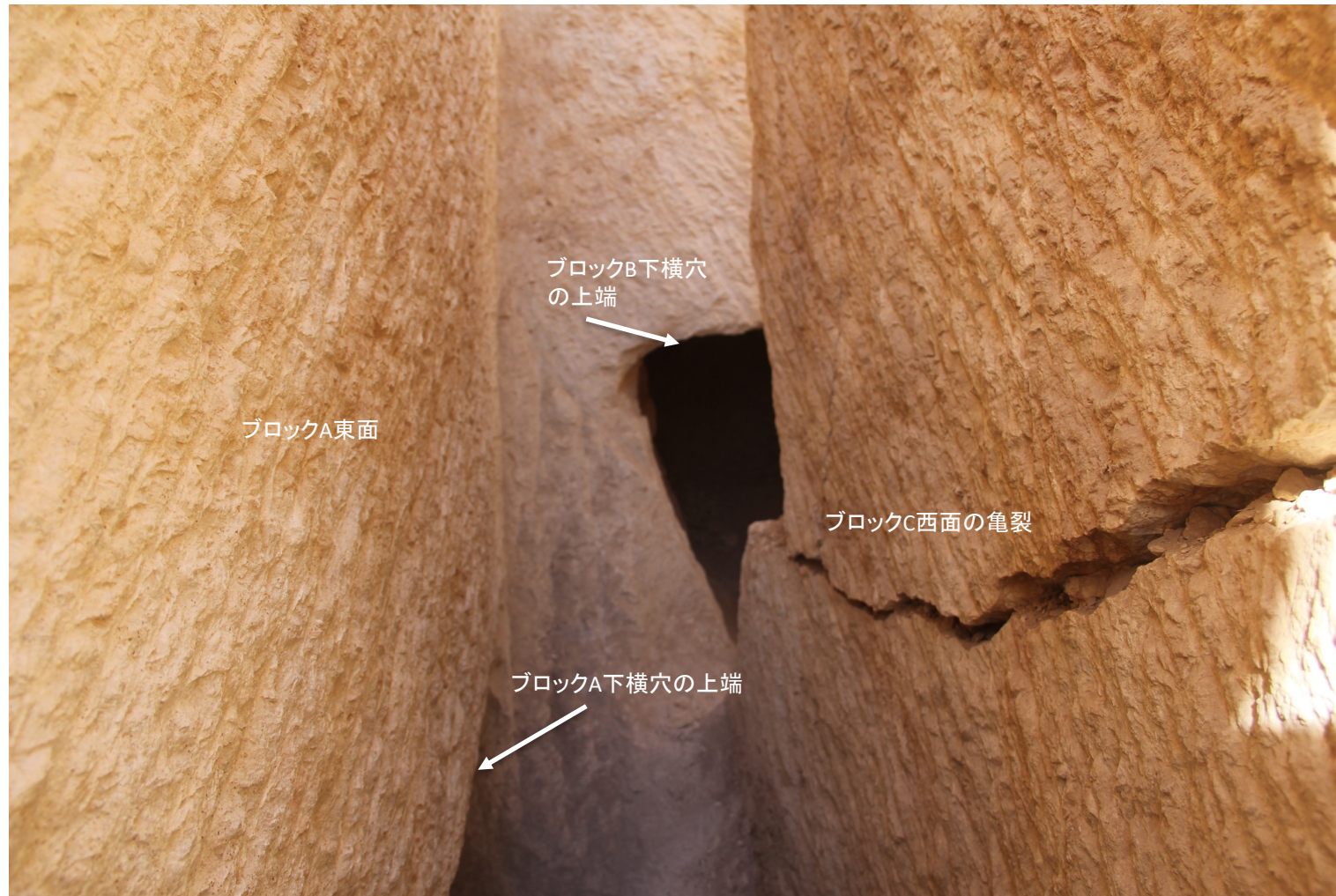


# 北から見下ろしたN区北半 (2020)





## 南から見た中央縦溝交差部





## ブロックAの底部





## ブロックA底部の北西端





治世6年パコン月15日（前242年7月4日）のグラフィート





治世6年トト月5日（前242年10月27日）のグラフィート







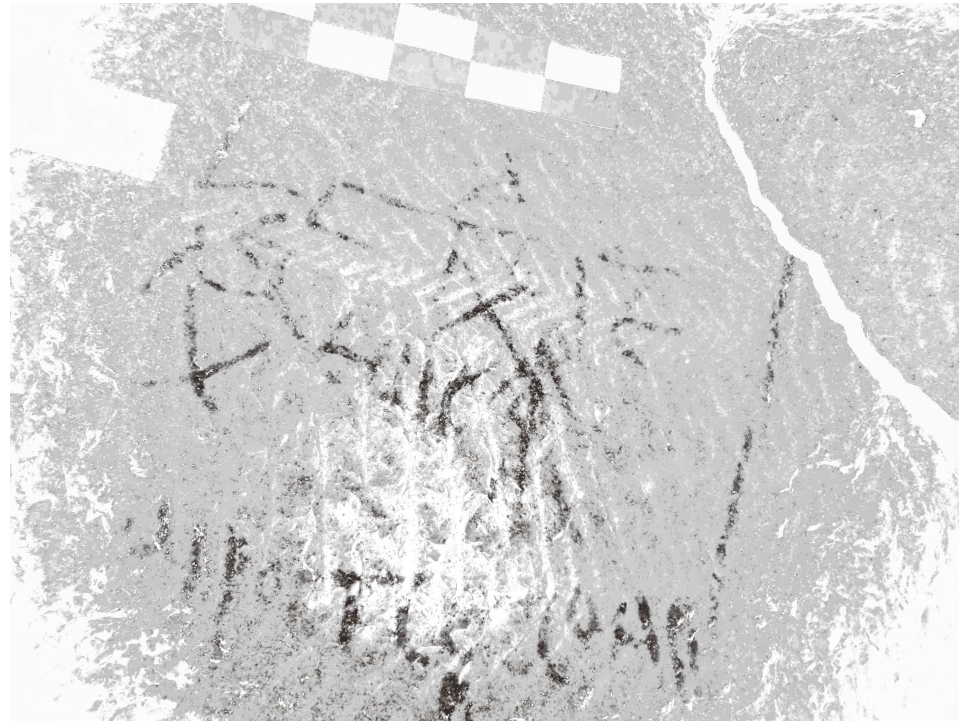
## N区調査の意義

谷の西側では数少ないグラフィティの集中区

ブロックAの底部に「試掘」ではない横穴ギャラリーが存在

横穴の天井部に攪乱を受けていないグラフィティと朱線が良好な状態で遺存

R、Sと同様にグラフィティに「期間」が言及される



N56

治世6年パコン月15日  
メケイル月、ファオフィ月まで  
(人名)

## 残されている問題

ニュー・メニア採石場の操業が開始されたのは、いつか？

財政暦の使用とグラフィティの記録はどのように関係していたのか？

なぜ、各セクションにおける採石作業は、その段階で中止されたのか？

横穴の試掘は、何のために行われたのか？

縦溝、横穴、それぞれの1日あたり標準掘削量はどれくらいだったのか？

「一単位」とは何を基準としたものなのか？

グラフィティにしばしば現れる「期間」は何を示しているのか？

ニュー・メニア採石場の石材は、どこから積み出されたのか？

いまだに謎は山積・・・





Thank you for your attention!  
(2020年1月6日の朝焼け)